これからの地塩会(ちしおかい)グループの歩み

医療法人「地塩会」
医療法人「香美会」
社会福祉法人「ふるさと自然村」

(医)地塩会 南国中央病院、老健「夢の里」等／(医)香美会 かがみ診療所、老健「あいの里」等／(社福)ふるさと自然村 特養「陽だまりの里」、ケアハウス「たんぽぽ」等

①施設を街にする、楽しくなければ福祉でない
②神奈川県横浜市への特別養護老人ホームの建設
③認知症看護、介護の新しい展開
④リハビリの充実、三百六十五日のリハビリを
⑤若い人を育てる医療、福祉の環境づくり

平成二十一年十月に高知市神田、二十三年四月に神奈川県横浜市と、続けて「有料老人ホーム」と「特別養護老人ホーム」を開設する地塩会グループ。娯楽性を備えた新しいタイプの施設、都市への進出など、新たな展開がみられます。新しい施設の特徴や方針、意気込みなどについて南国中央病院院長・山本浩志氏など六人の皆さんにお話を伺いました。

医療法人「地塩会」「香美会」理事長
南国中央病院院長
医学博士　山本浩志

有料老人ホーム神田(II)
平成二十一年十月完成予定

―このたび、高知市神田に二つ目の有料老人ホームを建設されるとお聞きしましたが、どのようなものですか。

山本(浩)／百八十人が入居できる大規模な有料老人ホームです。「施設(建物)を街にする」というキャッチフレーズを付けています。

社会福祉法人
「ふるさと自然村」運営部長
介護老人保健施設
「夢の里」「あいの里」顧問
山本満壽子

これからの高齢社会の切り札
認知症の介護のあり方とリハビリテーションの充実

―これからの高齢社会を考える上で、認知症に対する介護とリハビリテーションが重要になってくると思われます。今回の有料老人ホーム神田(II)には、認知症専用フロアがあるとお伺いしました。

山本(満)／一階が認知症専用フロアになり、入所定員が五十人です。介護コーナーを二カ所に設置していて、二十人が受け入れられるサービスもあります。症状や病態に応じての介護が可能です。

―今までのグループホームとの違いは何でしょうか。

山本(満)／県内で、認知症のグループホームが多く開設され、当法人でも、東は安芸市から西は中土佐町まで、十カ所の施設を運営しています。この十カ所のうち、開設してから二―三年経過している事業所から幾つかの課題があがっています。それは、

①介護度が重度化して、車いすの方が増えたこと

②食事準備や掃除などを利用者の方と共に行うことが困難になっていること

③職員への介護負担が増えてきていること

④グループホームは家庭的な構造になっている半面、移動距離などが少なく、おのずと活動範囲が狭くなっていることなどです。

―それに対する、具体的な対策や取り組みについてお教えください。

山本(満)／新施設は、食事の準備などに介護職員が手を取られなくなることから、利用者の方へのケア時間が増えます。職員にとっても、介護負担が分散されるので、働きやすい環境になるはずです。利用者のご要望にできる限り沿って、買い物の付き添い、施設内での映画鑑賞、陶芸、カラオケなど、これまでの日常生活の中での楽しみや活動が行えるように、職員が手助けしますこれらの行動が、心と体のリハビリにつながると思います。

―今後、認知症の患者さんは、ますます増えると伺っています。

山本(満)／現在でも、施設入居者の60%から80%が認知症の診断を受けているほど、二〇二五年には、八十歳以上の高齢者のうち、四人に一人が認知症になるといわれています。

―そういった認知症の方への介護で、大切なことは何ですか。

山本(満)／認知症の早期発見をすることで、早期であれば、治療効果が上がり、脳トレなどで進行を遅らせることが可能、定期健診の中で、認知症に関する検診も必要だと考えています。また、症状が進行してしまっても、その人が持てる力や能力が発揮できる環境を作ることも大切です。その環境と、介護職員のケアの質を上げれば、「その人らしい生活」を送ることができると考えています。この有料老人ホームは新しい試みの場。試行錯誤をしながら、チームで頑張っていきたいと思います。

有料老人ホーム 神田
グループホーム 神田
グループホーム 大津
夜間対応型訪問介護事業所 すばる
小規模多機能型居宅介護事業所 さいわい
高知ケアセンター
鴨田ケアセンター
高須ケアセンター
訪問看護ステーション高知

介護老人保健施設 あいの里
かがみ診療所
ケアハウス 菜の花
グループホーム のいち
グループホーム 香美安心ハウス

グループホーム かがみ
グループホーム やす
デイサービスセンター のいち
野市ケアセンター
居宅介護支援事業所 かがみ

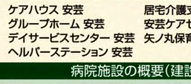
有料老人ホーム さかわ
デイサービスセンター さかわ
ヘルパーステーション さかわ
居宅介護支援事業所 さかわ

グループホーム 新荘の里
高知黒潮ケアセンター

養護老人ホーム 双名園
グループホーム ふたな
居宅介護支援事業所 ふたな
ヘルパーステーション ふたな
デイサービスセンター ふたな

日本医療機能評価機構認定病院
救急病院 南国中央病院
診療所 はまゆう
介護老人福祉施設 陽だまりの里
介護老人保健施設 夢の里
ケアハウス つくしんぼ
ケアハウス たんぽぽ
グループホーム なんごく

デイサービスセンター ぬくもり
デイサービスセンター 727
ヘルパーステーション ひだまり
居宅介護支援事業所 こもれび
居宅介護支援事業所 南国中央病院夢の里
在宅介護支援センター ほまろば
訪問看護ステーション なんごく
後免野田保育園



ケアハウス 安芸
グループホーム 安芸
デイサービスセンター 安芸
ヘルパーステーション 安芸
居宅介護支援事業所 でくてく
安芸ケアセンター
矢ノ丸保育園

デイサービスセンター さんさん
ヘルパーステーション さんさん
居宅介護支援事業所 さんさん

これからの地塩会(ちしおかい)グループは高知をもっと元気にしていきます

病院施設の概要(建設中を含む)

病院	99床	●救急病院 一般45床(10:1看護) 回復期リハ54床 ●平成17年 日本医療機能評価機構認定
診療所(2カ所)	0床	
老人保健施設(2カ所)	183床	
特別養護老人ホーム	60床	
養護老人ホーム	100床	
ケアハウス(4カ所)	300床	デイサービス・デイケア 14カ所
グループホーム(10カ所)	171床	保育園(2カ所) 312人
有料老人ホーム(5カ所)	412床 (建設中含む)	平成22年3月 特別養護老人ホーム 160床 (神奈川県横浜市)
合　計	1,325床	

インタビュアー
高知放送　井津葉子

神奈川県横浜市
ユニットケア全室個室
特養(百六十床)の建設

社会福祉法人
「ふるさと自然村」理事長
介護老人保健施設
「夢の里」施設長
山本恵子

―横浜市の磯子区に特養を建設されるということですが、その経緯をお聞かせください。

山本(恵)／人口二百万人の横浜市で特養などの高齢者施設が不足し、今年五月に市が百六十床の特養の公募を行いました。全国の十三法人が手を挙げたところ、幸いにも私どもの社会福祉法人「ふるさと自然村」が選ばれました。平成二十三年四月、三千坪の小学校跡地に施設を開設する予定です。

―横浜市といえば都会、そこへ進出される思いについてお聞かせください。

山本(恵)／私たちにとって、都会への進出は長年の夢でした。今まで培ったノウハウが存分に発揮できると考えています。今回、建設する磯子区は、横浜駅や「みなとみらい」から十一、二十駅南に位置しています。都会の中でも緑が多い場所で、閑静な住宅街なのでとてもいい環境、実は、ここも高齢化が進行しています。

―都会の高齢化が、これから深刻な問題になると聞きます。

山本(恵)／おそらく、現在の高知県における高齢化の姿が、十年後には、磯子区をはじめとする横浜市郊外で見られると思います。二十年後には、東京都や横浜市などの都会でも、そうなるかもしれません。

高知は高齢化先進県といわれることもあり、その中で私たちが学び育てた技術は優れている面もあります。それらの技術を横浜市でも生かせたらと考えています。さらに、音楽療法や脳リハビリも積極的に取り入れていきます。

―都会へ進出する「ふるさと自然村」のメリットは。

山本(恵)／都会には、豊かさや情報の豊富さ、多くの人々との交流、最先端の技術、学会をはじめ勉強の機会の多さなど、多大なメリットがあります。横浜市に進出することは、それらを学び、経験するいいチャンス。また、若い職員の中には、都会で生活し、人生をエンジョイしたいという思いもあるでしょう。人間は、勉強だけでなく、遊んで楽しむという要素も大切です。

―東京都や横浜市は、特養の待機者が数多くいるのに、それを看護、介護する人が少ないと聞きます。その点はどう考えてですか。

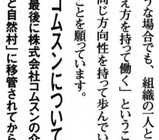
山本(恵)／高知からも、私たち「ふるさと自然村」の職員として、一―三年間は横浜市で働く人を育てていきたいと思います。同時にその人達の横浜での家の建設を行います。無料とは言いませんが、安い利用料を設定します。

そういう若い職員が、やがて高知と横浜市の掛け橋になってくれることを期待します。そのためには今から新しい職員の募集も始めますので、よろしくお願いします。

職員募集
●看護師●准看護師
●介護士●ヘルパー
●ケアマネージャー
まずはお電話ください
088-866-0888
(担当／徳弘早苗・福井由美)

特別養護老人ホーム(160床)神奈川県横浜市

リハビリの充実
三百六十五日のリハビリを



医療法人「地塩会」南国中央病院
総合リハビリテーション部部長
理学療法士　森田恵子

―高齢者に対するリハビリテーションは、先の認知症の介護と並んで今後、重要性が増してくると思います。南国中央病院のリハビリの現状をお教えください。

森田／当院では、一般病棟四十五床、回復期リハ病棟五十四床で、リハビリに力を入れております。脳血管疾患など、運動器、呼吸器ともに総合リハビリの体制を取っており、スタッフは総勢五十二名。その内訳は次のようになっています。

理学療法士(PT)　28名
作業療法士(OT)　15名
言語聴覚士(ST)　8名
(平成20年9月現在)

―たくさんのスタッフの方がサポートしていらっしゃるんですね。それでは、今後の取り組みや方向性について、お聞かせください。

森田／当院は、病院や診療所に加え、多くの施設、在宅部門を抱えています。特に力を注ぎたいと考えているのが、病院から在宅までの切れ目のないリハビリと、高齢者の介護予防です。

―具体的には、どのようなことをされているのでしょうか。

森田／入院回復期リハ病棟を中心に、リハビリを三百六十五日毎日行い、早期の在宅復帰を目指しています。家庭で見せない家族へのケアと、緒にリハビリができるビデオを個人ごとに作製して、退院時にお渡ししています。また、理学、作業、言語、それぞれの分野の特性を生かした体操を創作。それを収録したビデオは、介護予防教室などで愛用されています。

―多岐にわたった事業も行われているそうですね。

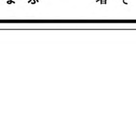
森田／訪問看護ステーションと連携して、在宅や居住系施設へ訪問リハビリを実施しています。また、南国市と香南市から介護予防事業を委託され、年間約五千名の特定高齢者を対象に行っています。これからの超高齢化社会を考えると、人材育成が必須。訪問介護員(ヘルパー)研修事業で講座を受け持っていることに加え、県内外のリハビリ養成学校より学生を年間四十名ほど受け入れて、臨床実習指導にあたっています。

―先ほどもお話にありましたように、横浜市に特養を建設されます。都市との交流や勉強会は、技術、サービスの向上につながりそうですね。

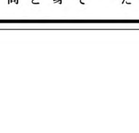
森田／近隣病院の回復期のセラピスト仲間との交流を深めることはもちろん、リハビリ養成校講師や先輩の協力を仰ぎたいと思っています。そこで、高知と都市とのお互いの情報を交換しながら、研修会なども実施していきたいですね。

若い人を育てる医療
福祉の環境づくり

―お若いながら、統括責任者としてのですが、理学療法士、相談員としての経験を生かしながら、スムーズに対応できたと思います。



社会福祉法人「ふるさと自然村」
有料老人ホーム さかわ
統括責任者
板垣宏典



医療法人「地塩会」
有料老人ホーム 神田
統括責任者
理学療法士　池雅道

板垣／「神田」「さかわ」ともに、地域の方により多く入居してほしいと考えています。十月末現在、「神田」は定員八十床のうち二十名の入居者数となっています。その理由の一つとして挙げられるのが、現在、地域の方にとって、施設のニーズがそれほど高くない、ということ。地域のおかれている環境によって、入所率が大きく違ってくる印象です。

―両施設では、入居者のみなさんはどのように過ごされていますか。

板垣／「陶芸」「脳リハビリ」を定期的に実施し、入居者同士のふれあいを大切にしています。入居した直後は表情が硬く、居室から出るのは食事のときだけという方が、交流を通じて変化が見られ、談話室でほかの入居者と笑顔で会話されるようになったなど、その効果を実感。さまざまな活動を通じて、自然と入居者同士の付き合いが生まれているようです。今後は、地域の方々と積極的に触れ合える納涼祭などの催しを行い、交流の輪を広げていきたいと考えています。「明るく・楽しく・ぬくもりのある施設」をスローガンに、入居者はもちろん、地域の方々にも当施設ができて良かったと感じていただけるように努めます。

池／「さかわ」と同様に、「神田」でも入居者同士の談笑、フリースペースやテラスでの散歩、日買い物の外出など、自宅にいた時のように気軽に行動をされている方も多いです。遠方に住まわれていた方が入居され、お子さまの住まいと施設が近かったことから、たびたびお会いするようになり、家族間のかかわりが増えたという事例もあります。

―最後に、統括責任者として苦労した経験を含め、これから医療、介護の世界へ進むことを希望する若い人たちに向けて、アドバイスやメッセージをお願いします。

池／専門職の知識しかなかったので、前述のような苦労はありました。畑違いだという理由で不満を口にするのではなく、とにかくやってみることが大切。仕事を楽しむことを心掛けてください。

板垣／責任者となれば、抱える問題が増えて大変です。しかし、この仕事を通じて、自分自身が成長したと感じる部分が大きいのも事実。どのような場合でも、組織の一人として「法人と同じ考え方を持って働く」ということが一番大切です。同じ方向性を持って歩んでいける職員が増えることを願っています。

＝コムスンについて＝

―最後に株式会社コムスンの介護事業を「ふるさと自然村」に移管されてから一年がたちますが、今はどうなっていますか。

山本(浩)／正直言えば、昨年十一月の移管当初は部の事業所において不正や多くの問題が発生しました。今は落ち着いています。ただ、これから福祉介護のどんな事業を展開するにしろ、法令を守ることが基本で、われわれは不正、うそ、隠し事に対して厳正に対応する法人でありたいと思っています。

―今日はお話をどうもありがとうございました。

この企画に関するお問い合わせは
社会福祉法人「ふるさと自然村」
徳弘早苗・福井由美まで
TEL 088-866-0888

高知第一薬品㈱　㈲昭和メディカル　㈲宮脇建築設計事務所　㈱西森建築設計　㈱野本木工所　(医)地塩会　(医)香美会　(社福)ふるさと自然村　㈲シー・エム・エス・里の会